



星降る
ケンタウルス祭の夜
僕たちは銀河鉄道で旅をした…

けれども
ほんとうのさいわいは
一体何だろう
どこまでもどこまでも
僕たち一緒に
進んでいこう



人形劇団クラルテ

銀河鉄道の夜

原作/宮沢賢治

脚色・演出/東口次登 美術/永島梨枝子 音楽/一ノ瀬季生 音響/松原康弘 照明/永山康弘 企画/高平和子

本当の友達って？
本当の幸せって？
人は死んだら何処へ行くの？

【ものがたり】

ジョバンニは生活のため、毎日学校が終わると、活版所で活字を拾う仕事をしていた。出稼ぎに行っている父親のことで学校の友達からはからかわれていたが、親友のカンパネラだけは違っていた。

ケンタウルス祭の夜、ジョバンニは病気の母親のために牛乳をもらいにでかけると、またいつものように他の子どもたちからかわれる。その中にカンパネラを見つけると、ジョバンニは彼の眼を避けるようにその場を去り、露の降りかかる林の小道をどんどん登っていった。

がらんと空がひらけた真っ暗な丘に体を投げ出して星空を見上げると、にわかに大きな汽車の音。そしてまぶしい光とともに不思議な声が響く。

銀河ステーション、銀河ステーション・・・



銀河鉄道に乗り合わせるひとたちはすべて紙でできています。「紙」には何か不思議な力があります。真新しい紙はさすがに、涼しく、潔い。無限の広がりを感じさせる。

けれどそれはとてもはかないもので、いったん折り目がついてしまうともうとれない。しわくちゃになってしまった紙は後戻りがきかない。が、丸めて捨てた紙のシワが妙に気になることがある。広げてみると微妙な陰影やヒダがいっぱいで、年を重ね、経験を積んだ人生の先輩のようでもあり、紙が自分の来歴を語っているような気さえしてくる。そんな紙のシワがおもしろくて立体にしてみました。

ジョバンニの悲しみや孤独、銀河鉄道に乗り合わせる人たちの『宇宙』、これらの紙の人形たちはどのように向かい合うだろうか。音と照明と、何より観客の想像力という宇宙の中で、はかなく危なっかしい紙の人形たちが命を吹き込まれ語り始める瞬間がくることを願っています。

美術/永島梨枝子

2019年 5月30日(木) 19:00 開演(開場 30分前/上演時間 1時間) 西川アイプラザ

参加費：一般 1人 2400円 未就学児は入場できません。チケットの購入、予約はお問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ：NPO法人みんなの劇場・おかやま 086-942-1544 e-mail info@npo.sakuraweb.com

NPO法人岡山市子どもセンター NPO法人みんなの劇場・おかやま合同鑑賞会企画

後援 岡山市教育委員会

